(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3143373号
(U3143373)
(45)発行日　平成20年7月24日(2008.7.24)　(24)登録日　平成20年7月2日(2008.7.2)

(51)Int.Cl.　　F I
D03D 9/00 (2006.01)　D03D 9/00
D03D 1/00 (2006.01)　D03D 1/00　Z

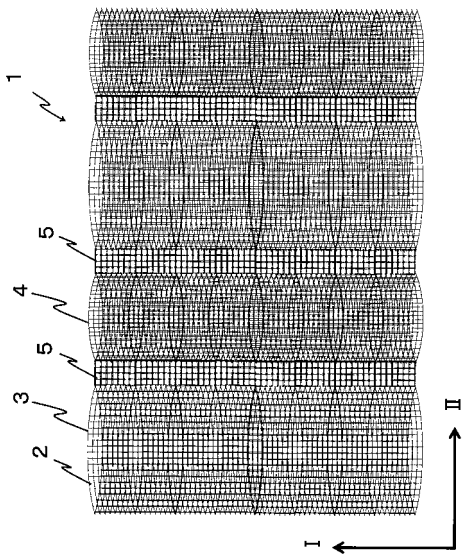
評価書の請求 未請求　請求項の数 2　ＯＬ　（全 6 頁）

(21)出願番号　実願2008-1856(U2008-1856)
(22)出願日　平成20年3月27日(2008.3.27)

(73)実用新案権者　390010478
アラオ株式会社
大阪府大阪市天王寺区国分町３番３０号
(74)代理人　100085316
弁理士　福島　三雄
(74)代理人　100110685
弁理士　小山　方宜
(74)代理人　100124947
弁理士　向江　正幸
(74)代理人　100140969
弁理士　高崎　真行
(72)考案者　樋熊　拓也
大阪府大阪市天王寺区国分町３番３０号
アラオ株式会社内

(54)【考案の名称】メッシュシート

(57)【要約】　（修正有）
【課題】強風に対するメッシュシートと支柱の結束部分が十分な強度を有しながら、敷地境界標識としても十分な視認性を有するメッシュシートを提供する。
【解決手段】敷地境界標識に使用されるメッシュシート１であって、緯糸と平行方向に連通している筒状の二重織り部が編製により形成され、前記二重織り部が、６０mm～１００mmの幅を有する幅広二重織り部３と、１０mm～５０mmの幅を有する幅狭二重織り部４とが経糸方向に交互に形成され、幅広二重織り部３および幅狭二重織り部４には緯糸方向に細長い網目２が全面にほぼ均一の大きさで配置されて形成されている。
【選択図】図１

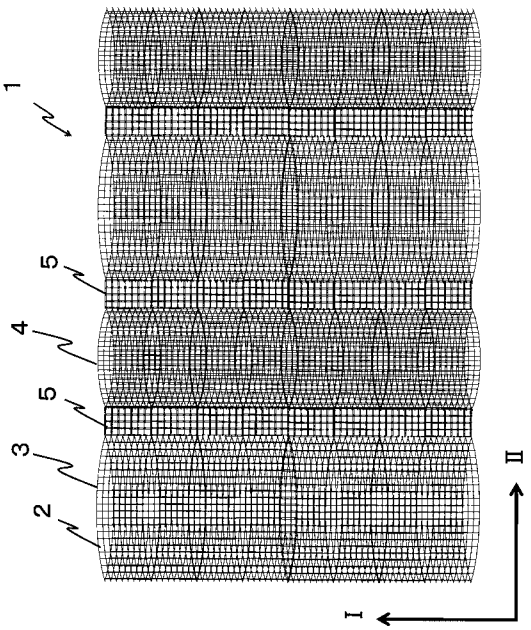


【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
敷地境界標識に使用されるメッシュシートであって、
緯糸と平行方向に連通している筒状の二重織り部が編製により形成され、
前記二重織り部が、６０ｍｍ～１００ｍｍの幅を有する幅広二重織り部と、１０ｍｍ～５０ｍｍの幅を有する幅狭二重織り部とが経糸方向に交互に形成され、
前記幅広二重織り部および前記幅狭二重織り部には、緯糸方向に細長い網目が、全面にほぼ均一の大きさで配置されて形成されていること、
を特徴とするメッシュシート。
【請求項２】
前記幅広二重織り部と前記幅狭二重織り部の各間には、５ｍｍ～４０ｍｍの幅を有する一重織り部が編製により形成され、
前記幅広二重織り部、前記幅狭二重織り部および前記一重織り部には、緯糸方向に細長い網目が、全面にほぼ均一の大きさで配置されて形成されていること、
を特徴とするメッシュシート。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、主として敷地境界標識に使用されるメッシュシートに関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、工事現場やスキー場等で敷地境界標識として用いられるシートは、強風による破損を防ぐため通風性を有するメッシュ構造を有していたが、使用の際には前記シートをロープ等で支柱にくくりつける等して固定して用いられていた。
【特許文献１】特開平９－３０２９４４
【考案の開示】
【考案が解決しようとする課題】
【０００３】
従来の敷地境界標識に使用されるシートは使用する際に、支柱等にロープ等を用いてくくりつける等していたために、強風の場合にはロープがずれたり外れたりするなど、支柱への固定の強度が十分でないという問題があった。また、シートと支柱との固定強度を十分確保するためには、ロープで固定する箇所を増やすなど、施工が煩雑なものとなる問題もあった。
一方、シートの施工を容易にするためにシートの網目自体に支柱を通して使用する場合には、支柱を通すために網目を大きくする必要があり、敷地境界標識としての視認性を下げてしまう問題が生じていた。
【課題を解決するための手段】
【０００４】
本考案は前記課題を解決するために考案した敷地境界標識に使用されるメッシュシートであって、緯糸と平行方向に連通している筒状の二重織り部が編製により形成されていることを特徴とする。
前記緯二重織り部が筒状に連通している部分の緯糸方向の長さは、前記メッシュシートの緯糸方向の長さと同一の長さとなるように形成されていることが望ましい。
また、前記二重織り部の両端部は開口していることが望ましいが、各前記二重織り部の端部のうち、前記メッシュシートの緯糸方向の一方の縁側の端部は閉口し、他方の縁側の端部は開口した構造であっても良い。
前記メッシュシートはプラスチック繊維で構成されていることが望ましく、合成樹脂繊維、木綿繊維を用いることもできる。
また、前記メッシュシートはラッセル織り、絡み織、または紗織による作製方法を用いることができる。

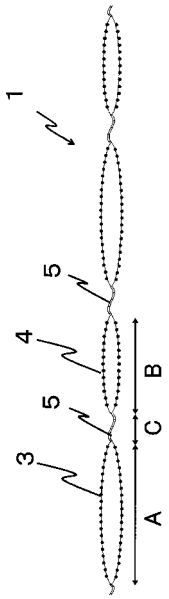
【０００５】
また、前記二重織り部は、６０ｍｍ～１００ｍｍの幅を有する幅広二重織り部と、１０ｍｍ～５０ｍｍの幅を有する幅狭二重織り部とが経糸方向に、交互に形成されていることを特徴とする。
前記幅広二重織り部は、幅が７０ｍｍ～９０ｍｍであることがより好ましい。また、前記幅狭二重織り部は、幅が２０ｍｍ～４０ｍｍであることがより好ましい。
【０００６】
前記幅広二重織り部と幅狭二重織り部の各間には、５ｍｍ～４０ｍｍの幅を有する一重織り部が編製により形成されていることを特徴とする。
該一重織り部は、網目構造が一重となるように、編製により一体に形成されている。
【０００７】
ここで、前記二重織り部は、「幅広二重織り部、幅広二重織り部」と「幅狭二重織り部、幅狭二重織り部」のように幅広二重織り部が連続して編成された部分と、幅狭二重織り部が連続して編成された部分が経糸方向に交互に形成されてもよい。
あるいは、「幅広二重織り部」と「幅狭二重織り部、幅狭二重織り部」のように、単一の幅広二重織り部と、幅狭二重織り部が連続して編成された部分が経糸方向に交互に形成されたり、「幅広二重織り部、幅広二重織り部」と「幅狭二重織り部」のように、幅広二重織り部が連続して編成された部分と、単一の幅狭二重織り部が経糸方向に交互に形成されても良い。
また、各前記幅広二重織り部同士の間、前記幅狭二重織り部同士の間、または前記幅広二重織り部と前記幅狭二重織り部の間に一重織り部が連接されて形成されていても良い。
【０００８】
前記幅広二重織り部、前記幅狭二重織り部および前記一重織り部には緯糸方向に細長い網目が全面にほぼ均一の大きさで配置されて形成されていることを特徴とする。
前記網目は一辺が２ｍｍ～６ｍｍの略矩形であることが好ましい。また、前記網目はラッセル織り、絡み織、または紗織による作製方法を用いることができる。
【考案の効果】
【０００９】
本考案によると、前記二重織り部が筒状になっており、該二重織り部に支柱を挿入してメッシュシートを固定することから、従来のようにシートを支柱等にロープ等を用いてくくりつけて固定する場合に比べて容易に固定することができる。
また、強風から受ける力を、支柱が挿入された前記二重織り部全体で支えることができるため、従来のようにロープ等を用いてシートを支柱にくくりつけて固定する場合に比べて、メッシュシートと支柱を固定する部分の強風に対する強度を十分に保持することができる。
さらに、前記幅広二重織り部は６０ｍｍ～１００ｍｍの幅を有するため、直径３０ｍｍ～６０ｍｍの太い支柱を挿入することができ、特に強風対策が必要な場合には前記太い支柱を選択して使用することができる。一方、前記幅狭二重織り部は１０ｍｍ～５０ｍｍの幅を有するため、直径３ｍｍ～３０ｍｍの細い支柱を挿入することができ、支柱が細い場合であっても、支柱とメッシュシートとのずれの発生を抑え、安定に固定することができる。そのため、強風に対する対策が必要ない場所では、直径が細く重量の軽い支柱を用いることで、メッシュシートの施工を容易にすることができる。
以上の通り、メッシュシートに幅広二重織り部と幅狭二重織り部が形成されることによって、太い支柱もしくは細い支柱を用途に応じて選択的に使用することができ、別途ロープ等でくくりつけて固定する場合に比べて施工が容易である。
また、各二重織り部の間に５ｍｍ～４０ｍｍの幅を有する一重織り部を形成することによって、二重織り部間の境界部の強度を十分に確保することができる。
さらに、前記幅広二重織り部、前記幅狭二重織り部および前記一重織り部には緯糸方向に細長い網目が全面にほぼ均一の大きさで配置されて形成されていることによって、強風時にも通風性を確保できると共に敷地境界標識として十分な視認性が確保できる網目寸法

を選択することができる。
なお、前記二重織り部にロープもしくはワイヤーを挿入してメッシュシートを固定してもよいことはいうまでもない。
【考案を実施するための最良の形態】
【００１０】
本考案の実施例を以下に詳細に説明する。
【００１１】
図１に示されているように、プラスチック繊維を用いてラッセル織りによって、網目２が全面に配置されたメッシュシート１を作製した。網目２の経糸方向ＩＩの辺は約３ｍｍ、緯糸方向Ｉの辺は約５ｍｍとなるようにした。
メッシュシート１には幅広二重織り部３および幅狭二重織り部４が形成されており、また、幅広二重織り部３と幅狭二重織り部４は一重織り部５によって、経糸方向ＩＩに連接されている。図１にはメッシュシート１の全体像は示されていないが、メッシュシート１は、幅広二重織り部３、一重織り部５、幅狭二重織り部４および一重織り部５が連接された構造がメッシュシート１の経糸方向ＩＩに繰り返し連なることによって、交互に形成されている。
図２はメッシュシート１の端面を示した図である。幅広二重織り部３の幅Ａは８０ｍｍであり、幅狭二重織り部４の幅Ｂは４０ｍｍとした。また、一重織り部５の幅Ｃは１０ｍｍとした。
【００１２】
図３には、幅広二重織り部３に直径４０ｍｍの支柱６を挿入し、該支柱を地面に固定することによって、メッシュシート１を敷地境界標識として用いる場合の実施例１を示す。
本実施例１では、各前記直径４０ｍｍの支柱６の間には、二つの幅狭二重織り部４および支柱の挿入されていない幅広二重織り部３が一つ挟まれて配置されている。このように、幅広二重織り部３を使用すると、強風に対しても強い直径の太い支柱を用いることができるため、支柱間の間隔を広く取る配置とすることができる。
【００１３】
一方、図４には幅狭二重織り部４に直径２０ｍｍの支柱７を挿入し、該支柱を地面に固定することによって、メッシュシート１を敷地境界標識として用いる場合の実施例２を示す。
本実施例２では、前記直径２０ｍｍの支柱７を、各幅狭二重織り部４に挿入している。本実施例の場合、重量の軽い支柱を用いることができるため、メッシュシート使用の際の施工を容易に行うことができる。
【図面の簡単な説明】
【００１４】
【図１】メッシュシートの正面を示した図である。
【図２】メッシュシートの横断面を示した図である。
【図３】幅広二重織り部３を用いた場合の実施例１を示した図である。
【図４】幅狭二重織り部４を用いた場合の実施例２を示した図である。
【符号の説明】
【００１５】
１　メッシュシート
２　網目
３　幅広二重織り部
４　幅狭二重織り部
５　一重織り部
６　太い支柱
７　細い支柱
Ｉ　緯糸方向
ＩＩ　経糸方向

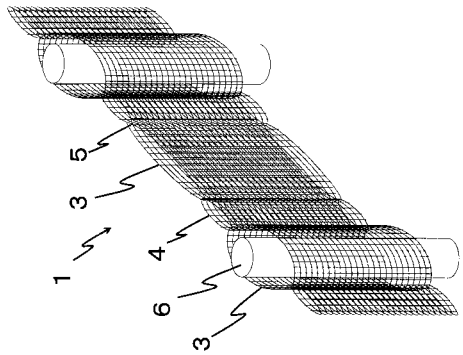
【図１】



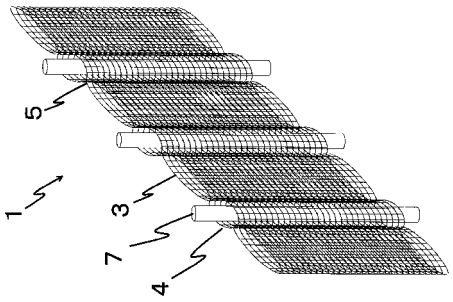
【図２】



【図３】



【図４】



【手続補正書】
【提出日】平成20年5月20日(2008.5.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
敷地境界標識に使用されるメッシュシートであって、
緯糸と平行方向に連通している筒状の二重織り部が編製により形成され、
前記二重織り部が、６０ｍｍ～１００ｍｍの幅を有する幅広二重織り部と、１０ｍｍ～５０ｍｍの幅を有する幅狭二重織り部とが経糸方向に交互に形成され、
前記幅広二重織り部および前記幅狭二重織り部には、緯糸方向に細長い網目が、全面にほぼ均一の大きさで配置されて形成されていること、
を特徴とするメッシュシート。
【請求項２】
前記幅広二重織り部と前記幅狭二重織り部の各間には、５ｍｍ～４０ｍｍの幅を有する一重織り部が編製により形成され、
前記幅広二重織り部、前記幅狭二重織り部および前記一重織り部には、緯糸方向に細長い網目が、全面にほぼ均一の大きさで配置されて形成されていること、
を特徴とする請求項１記載のメッシュシート。